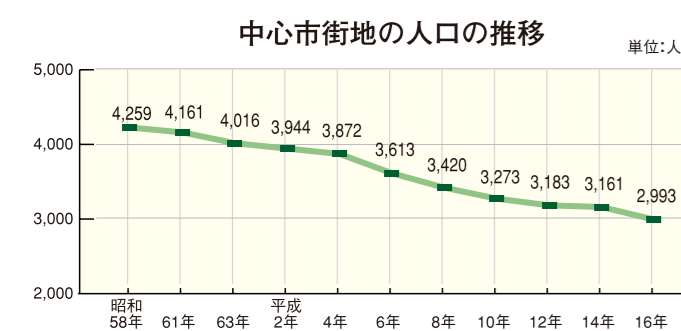
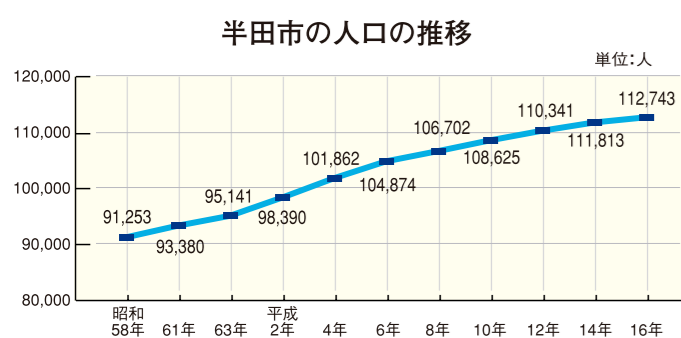


▶ 半田市の中心市街地の現状

- 半田市の中心市街地は、JR半田駅及び名鉄知多半田駅を中心に発展してきましたが、近年の自動車中心の生活とともに郊外に大規模店舗が進出するなど、空洞化が著しくなり、活気や賑わいが失われてきました。
- 半田市では、両駅周辺の中心市街地を活性化し、良好な都心居住地の整備を図るため、現在、知多半田駅前土地区画整理事業を施行しています。また、同地区内において土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図るため、市街地再開発事業を実施し、商業施設及び都市型住宅等を導入することとしています。
- こうした事業により都市の再生を目指していますが、中心市街地の一角を担ってきた、JR半田駅前地区においては、いまだに空洞化が進んできており、知多半田駅前地区と一体的な中心市街地の整備が必要となっています。



※毎年4月1日現在の人口

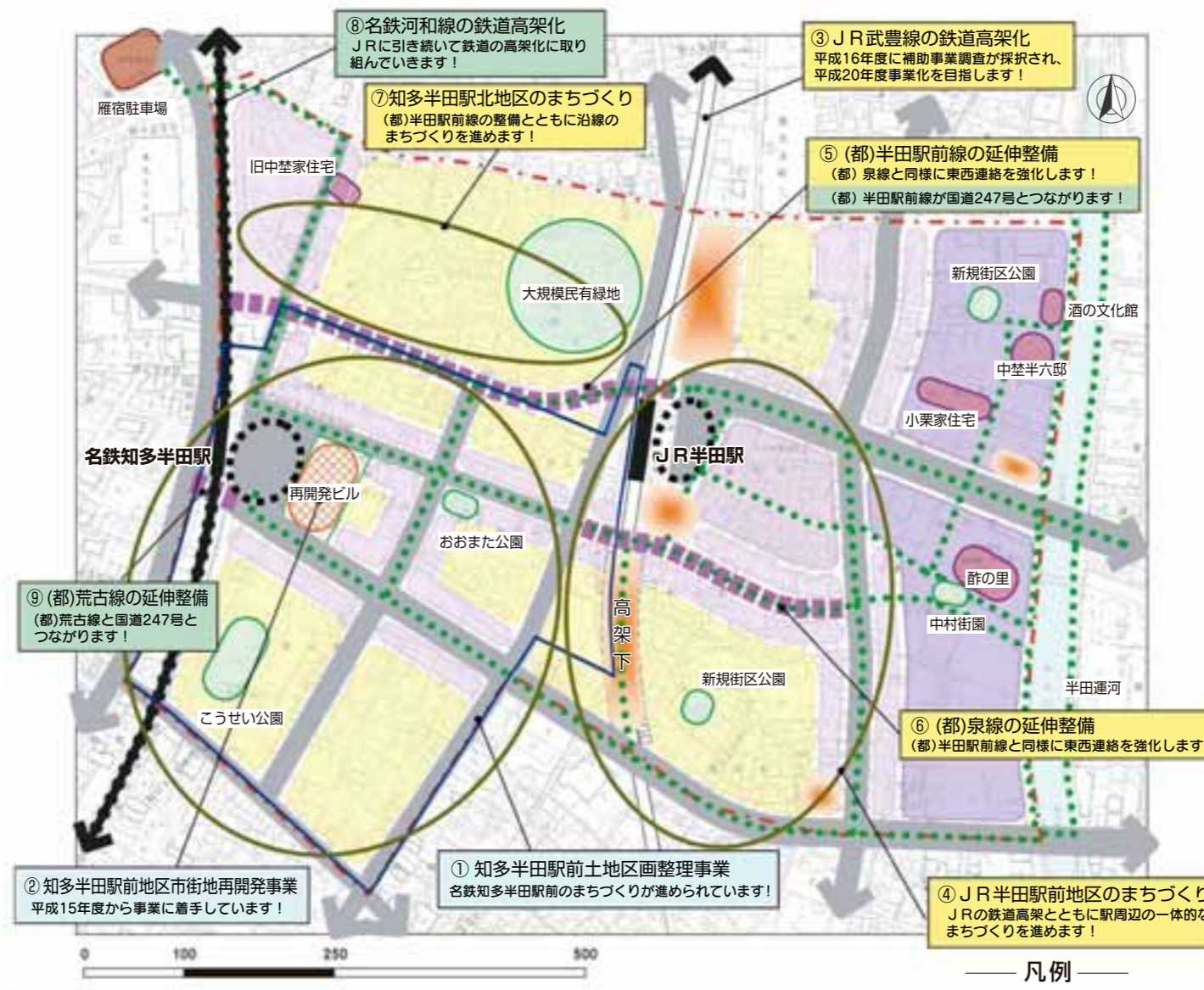
※中心市街地人口は、天王町、銀座本町、中村町、御幸町、山崎町、新川町、南本町、荒古町、西端町、山ノ神町、北末広町、南末広町、泉町、広小路町、更生町、大和町、中町の合計人口。



▶ まちづくりの取り組み

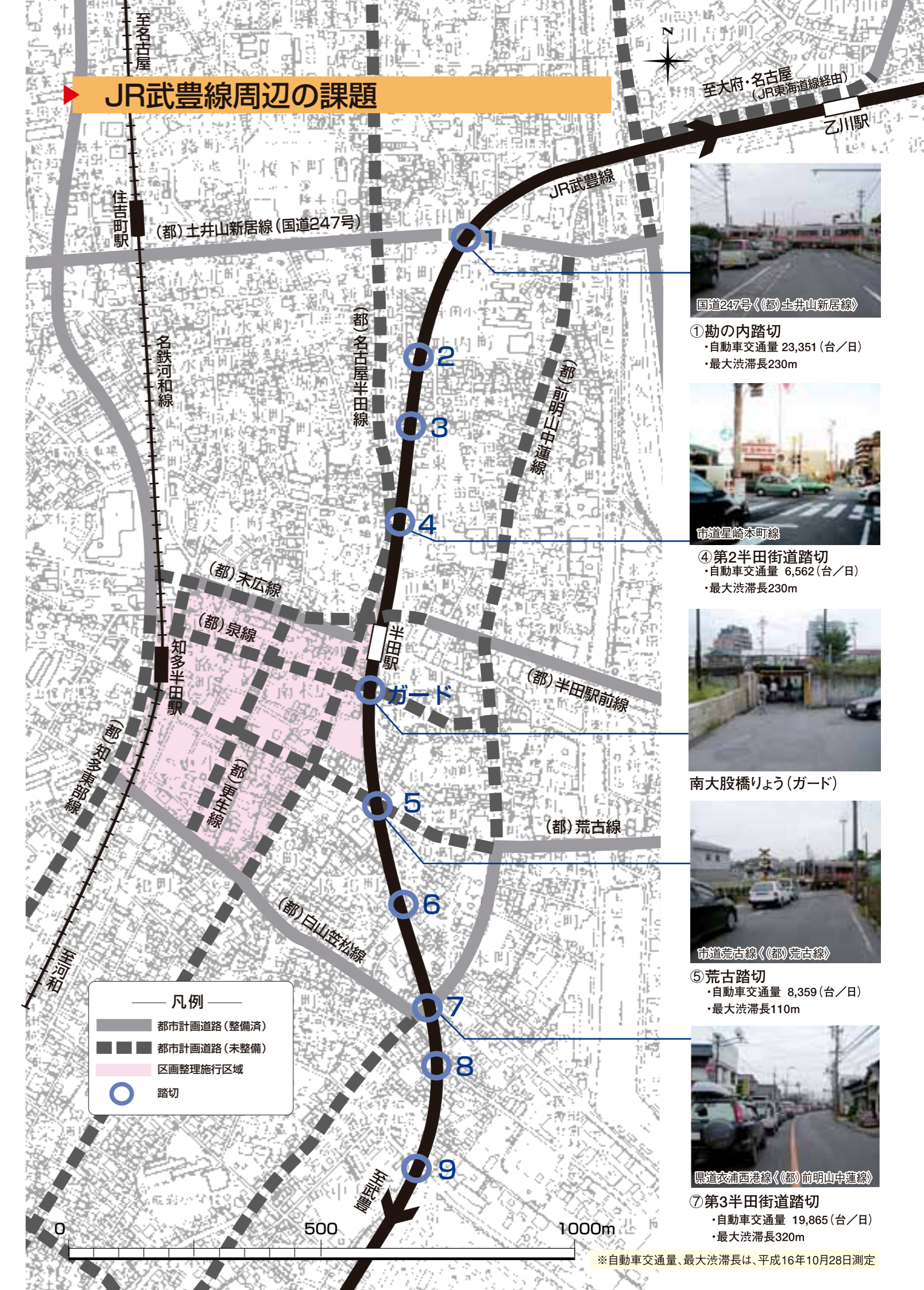
- 平成16年度には知多半田駅前地区とJR半田駅前地区を含む約55haの区域の住民や各種団体の代表者で組織された「JR半田駅周辺まちづくり協議会」が設立され、中心市街地の一体的なまちづくり構想を策定しました。

まちづくり構想図(案)



- 半田市においても、まちづくり構想の実現に向け、JR武豊線と名鉄河和線の両鉄道を高架化し、市街地の分断を解消するとともに、新たな道路網を整備し、中心市街地の利便性の向上を図ります。(JR武豊線の高架事業を第一期事業、名鉄河和線の高架事業を第二期事業とします。)
- JR半田駅前地区や知多半田駅北地区においては、知多半田駅前土地区画整理事業に続き、面的なまちづくりを行い、鉄道高架と一体的なまちづくりを進めていきます。

▶ JR武豊線周辺の課題



① 勘の内踏切
・自動車交通量 23,351 (台/日)
・最大渋滞長230m



④ 第2半田街道踏切
・自動車交通量 6,562 (台/日)
・最大渋滞長230m



南大股橋りょう(ガード)



⑤ 荒古踏切
・自動車交通量 8,359 (台/日)
・最大渋滞長110m



⑦ 第3半田街道踏切
・自動車交通量 19,865 (台/日)
・最大渋滞長320m

※自動車交通量、最大渋滞長は、平成16年10月28日測定

▶ 半田市の鉄道高架とまちづくり

- 中心市街地にかつての賑わいを取り戻すためには、中心市街地の一体的な整備と東西都市軸の形成が地域の活性化に強いインパクトを与えることから、半田市では中心市街地を通過するJR武豊線と名鉄河和線の2本の鉄道をそれぞれ段階的に高架化することとし、鉄道の沿線地区において、道路の整備や商店街の再編・活性化など、まちづくりの取り組みを一体的に進めていくこととしています。
- その第一段階として、16年度にJR武豊線半田駅付近連続立体交差事業調査費が国に認められ、事業主体の愛知県とともに、実現に向けて着実な一歩を踏み出しています。